

茨木市立郡小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10 月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ② 我が国の言語文化に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと | 課題が残る結果であった |
| ⑤ C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

- ・問題の意図を選択する問題で正答率が最も高く、無解答率も最も低かった。
- ・問題の条件(○文字以上○文字以内)に合うように記述する問題の正答率が最も低かった。
- ・文の中で漢字を正しく使う問題の無解答率が高かった。

分析

- ・問題文で問われている、設問内容を正確に理解することに課題が見られる。
- ・全体的に無解答率が高いことから、文章全体の流れや意味を読み取ることに課題が見られると考えられる。また、後半の問題で無解答率が高くなるのは、問題の難易度以外にも、問題を解くための時間配分に課題があると考えられる。
- ・言葉に関する事項にやや課題が残る結果になったことから、語彙の定着に課題が見られる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-----------|---------------|
| ① A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④ Dデータの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・整数のかけ算を解く問題の正答率が最も高かった。
- ・無解答がない設問が半数以上であった。
- ・数量が変わっても、割合は変わらないことを問う問題の正答率が最も低かった。
- ・プログラミングの問題に無解答率が高かった。

分析

- ・正答率は、全国と比べて全体的に概ね良好な結果であった。
- ・基礎的な四則計算や学習内容の定着はできているが、問題の目的を理解し、その条件に合った数の処理方法を考えることに課題が見られた。
- ・データの活用では、分類整理されたデータをもとに、目的に合ったデータの特徴を捉えて考察することに課題が見られた。
- ・プログラミング的思考での無解答率が高かったので、算数科において、児童の意欲・関心につながるプログラミングの学習にも取り組む必要がある。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ② 粒子 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ヒントをもとに、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ問題や、冬の天気と気温の変化をもとに、問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率が最も高かった。
- ・日光は直進することを問う問題の正答率が最も低かった。
- ・無解答がない設問が半分以上である。
- ・凍った水溶液について、試してみたいことをもとにわかったことを書く問題と、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は何が変化したものかを書く問題の無解答率が最も高かった。

分析

- ・設問の半数以上が全国の正答率を上回っており、理科の学習は概ね理解が進んでいる。
- ・府や国と比べて、実際に行った実験や観察の経験を活用する問題の正答率が高い。
- ・府や国と比べて、結果を分析して自分の考えを書くことが難しく、無解答率が高くなっている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、H30 年、H31 年と上昇傾向だったものの、それ以降は下降傾向が続いている。R4 年度も前年度を下回っている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層の国語では、3 年間、大きな変化が見られなかったが、算数では下降傾向がみられる。学力低位層の国語では、H30 年から増加傾向が見られる。算数では増加傾向にあったが今年度は減少した。エンパワー層は、年々増加している。

学力向上に関する取組み

授業力向上のため、『主体的に学び、生きる力を育む』をテーマに、文章を読んで、想いや考えを伝え合うことを通して、思いをつなげる授業づくりについて取り組んできた。児童のつぶやきから授業を展開したり、児童が関心・意欲を持ち続けて授業に取り組んだりするための声かけや児童同士のつなぎ方の研究を行い、実践している。

- ・国語では、「読むこと」に焦点を当て、文章の理解につながるように、文脈から意味を推測したり、要約や要旨をまとめたりなど、单元ごとに力をつけられるよう授業に取り組んでいる。
- ・学習計画表を活用し、児童が見通しを持てる授業を行う。
- ・お話し名人、聞き名人などの掲示物を全学年でそろえることで、聞き方、話し方の身につけたい姿を学校全体で共有している。また、授業のめあてや振り返りなど授業の流れを全校で統一し、学年が変わっても授業の進め方は変わりなく、授業への不安を軽減する。
- ・各学年で、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」に対して児童の実態に応じた目標を設け、取り組むことで学力向上につなげている。
例：ペアやグループでの話し合い活動を行い、話す力を育む。友だちの発言を自分の考えと比べたり、大事なポイントを意識したりしながら聞くことで、聞く力を育む。リズム読みや漢字読みなど、多様な音読の場を設定することで、読むことに興味を持ち、読む力を育む環境を作る。
- ・朝学、昼学の時間を設け、全校的に学習に取り組む時間を設けている。
→月曜日：読書 火曜日：計算 木曜日：学年に応じた学習 金曜日：計算
- ・読書ノートを活用や本の紹介を通して、読書活動にも力を入れている。
- ・学期ごとに家庭学習・持ち物ふりかえり週間を設け、児童の生活習慣を把握したり、学習に取り組む習慣を身につけさせたりする活動を、保護者と連携しながら行っている。
- ・児童への声のかけ方や指導の仕方、合理的配慮の方法の研修会を開催し、授業にいかしている。